

前代未聞の税金ムダづかい

杉並区政史上、前代未聞の税金ムダ遣いが田中区長のトップダウンで進められています。区有地及び区立施設と、二つの国有地を「財産交換」という計画は多額の税金ムダづかいと地域破壊を引き起こします。マスコミも注目するなか、第一回定例議会で可決。賛成した議員らに対しても住民の怒りが広がり、「最後まであきらめない!」と運動はむしろ高まっています。

・28億円
・築10年

廃止

あんさんぶる荻窪

・あんさんぶる荻窪とほぼ同じ
・40億円

新築

新庁舎棟

『財産交換』方針の異常

財産交換とは、駅前にある区立の複合施設「あんさんぶる荻窪」を、駅から徒歩10分の荻窪税務署等国有地と交換する方針です。区は財産交換をすれば広い国有地に大規模特養ホームが造れると主張します。しかし、この交換で10年程前に約30億円で建てたあんさんぶる荻窪は廃止。交換で取得した国有地に約40億円もかけてかわりの施設を新築するという驚くべき税金のムダづかいとなります。

あんさんぶる荻窪は区民と区が構想段階から協議して完成させた区の誇るべき区立施設です。そうした区民の交流空間や児童館がなくなる問題、追い出された学童クラブの影響で地域の小学校が早期改築を余儀なくされるなど様々な問題が発生します。

財産交換でなくとも大規模特養ホームは建設可能

そもそも財産交換をせずとも荻窪税務署を現地において今より容積を増やした中層建築にすれば、4000㎡を超える土地が余り、区が計画している大規模特養ホームは造れます。しかも特養ホーム整備なら、国有地は市価より安く事業者に貸し出されるため、区の持ち出しなく特養ホームの建設が進むのです。

あんさんぶる荻窪を廃止せず、区の負担なく大規模特養ホームが造れるという提案にはマスコミも注目し(写真)、区長自身が党区議団の質疑に対し、「制度上ありうる」と答弁しています。ならばなぜ?と多くの区民が疑問の声をあげています。



東京新聞
(2月24日付)

「国は国有地に介護施設を整備する場合に借地料を安くする制度を始めており、仕組みを活用すれば投入する税金が減り、早く特別養護老人ホームを建設できるとの意見も区議や住民からあがっている」

都政新報
(2月29日付)

「財務省の職員からは『特養を建設するだけで、杉並区はなぜこんな手間とお金がかかるやり方をするのか』という率直な疑問も漏れ聞こえたという」

